

株式会社ウィッツ

2026年8月期

決算説明資料

2026年10月

証券コード：4440（東証スタンダード）

Creating Life
of
Your Dreams

半歩先の技術で人々の生活を豊かに

— 本日も伝えたいこと

売上・利益は過去最高を更新。

27/8期は将来を見据えた成長基盤の再構築の年に

01

売上高・各段階利益で
過去最高を更新

売上高

5,790 百万円

前期比 +19.2%

2026/8期 年間配当

21 円

うち記念配当 3円



02

4Qは、BEV関連案件の需要減退と
品質不良への対応で減速

4Q 営業利益

87 百万円

前年同期比 △12.8%

品質不良案件

1件収束

もう1件も収束に向かう



03

当初中期目標の50億円を突破。
60億円を通過点に、次のステージへ

2027/8期 売上高(予想)

6,000 百万円

前期比 +3.6%

2027/8期 営業利益(予想)

680 百万円

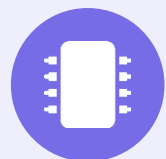
前期比 +0.9%



60億円は通過点。将来の飛躍に向けた準備を進める

経営理念「半歩先の技術で人々の生活を豊かに」

(2026.8末時点)



組込み
ソフトウェア



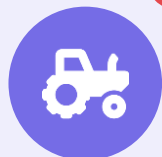
セーフティ・
セキュリティ



シミュレーション
・DX



X線検査装置
(センシング)



スマート農業
(GPS制御)

NEW



クラウド型
施設予約

連結売上高

5,790 百万円

連結営業利益

673 百万円

連結従業員数

357 名

資本金

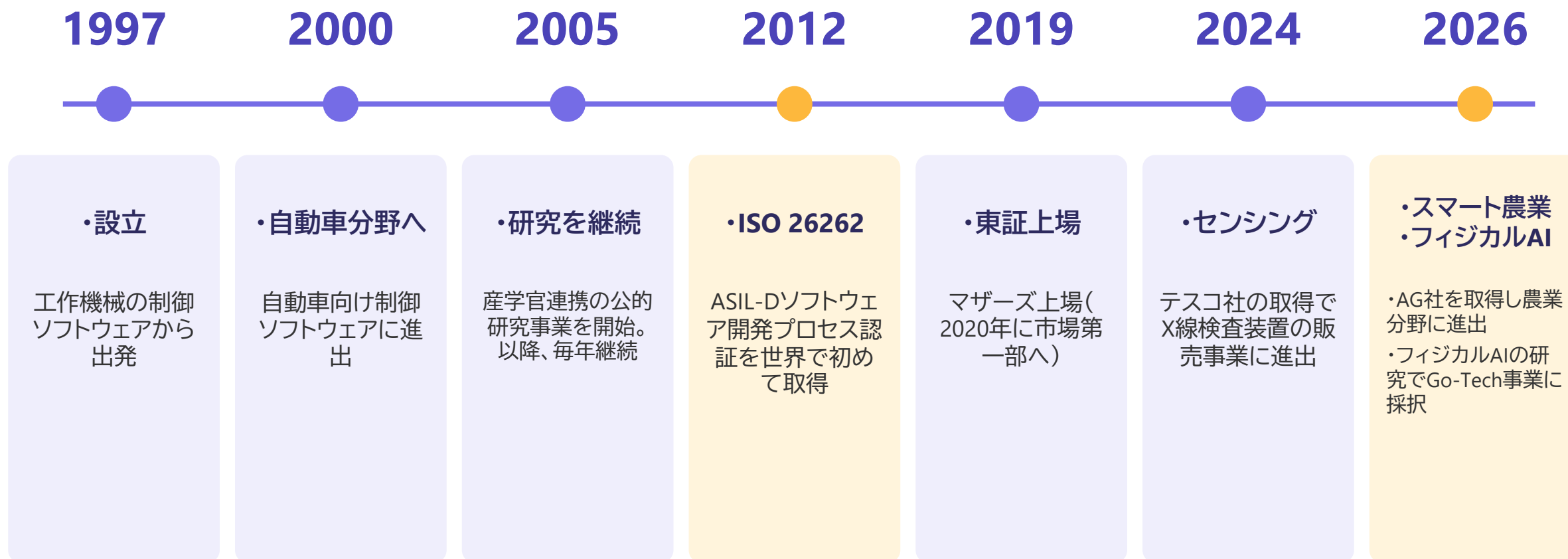
612 百万円

連結子会社

8 社

Society 5.0に必要な中核技術を、広げ、強め、発展させる

研究で獲得した半歩先の技術を、自動車・産業機器などの産業へ展開



上場後はM&Aにより、ソフトウェア事業の規模拡大や他分野への進出を実現

本日のご説明

01

2026年8月期の業績

過去最高の業績と、4Qの減速要因



02

2027年8月期の計画・株主還元

AIによる変化をチャンスにする準備と、中計最終年度



03

次の3年に向けた成長基盤の再構築

AIで強みを鍛え、新たな事業の柱を築く



売上高・各段階利益で過去最高を更新



売上高

5,790

百万円

前期比 **+19.2%**

修正予想比 **102.5%**



営業利益

673

百万円

前期比 **+18.9%**

修正予想比 **106.5%**



経常利益

700

百万円

前期比 **+19.0%**

修正予想比 **106.8%**



当期純利益

491

百万円

前期比 **+15.8%**

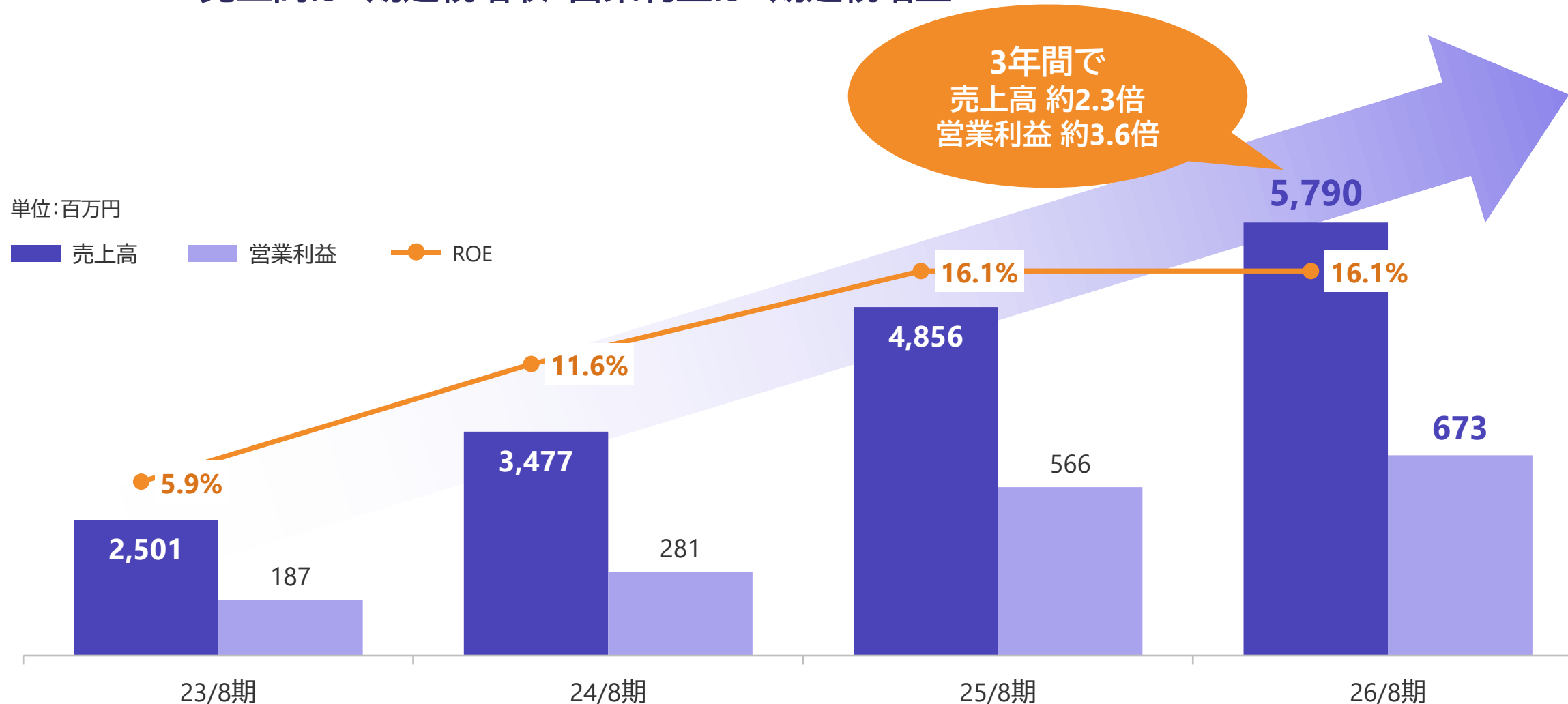
修正予想比 **109.2%**

7月に上方修正した予想も、すべての段階で上回って着地

2026/8期

売上高・営業利益ともに過去最高を更新

売上高は5期連続増収・営業利益は3期連続増益

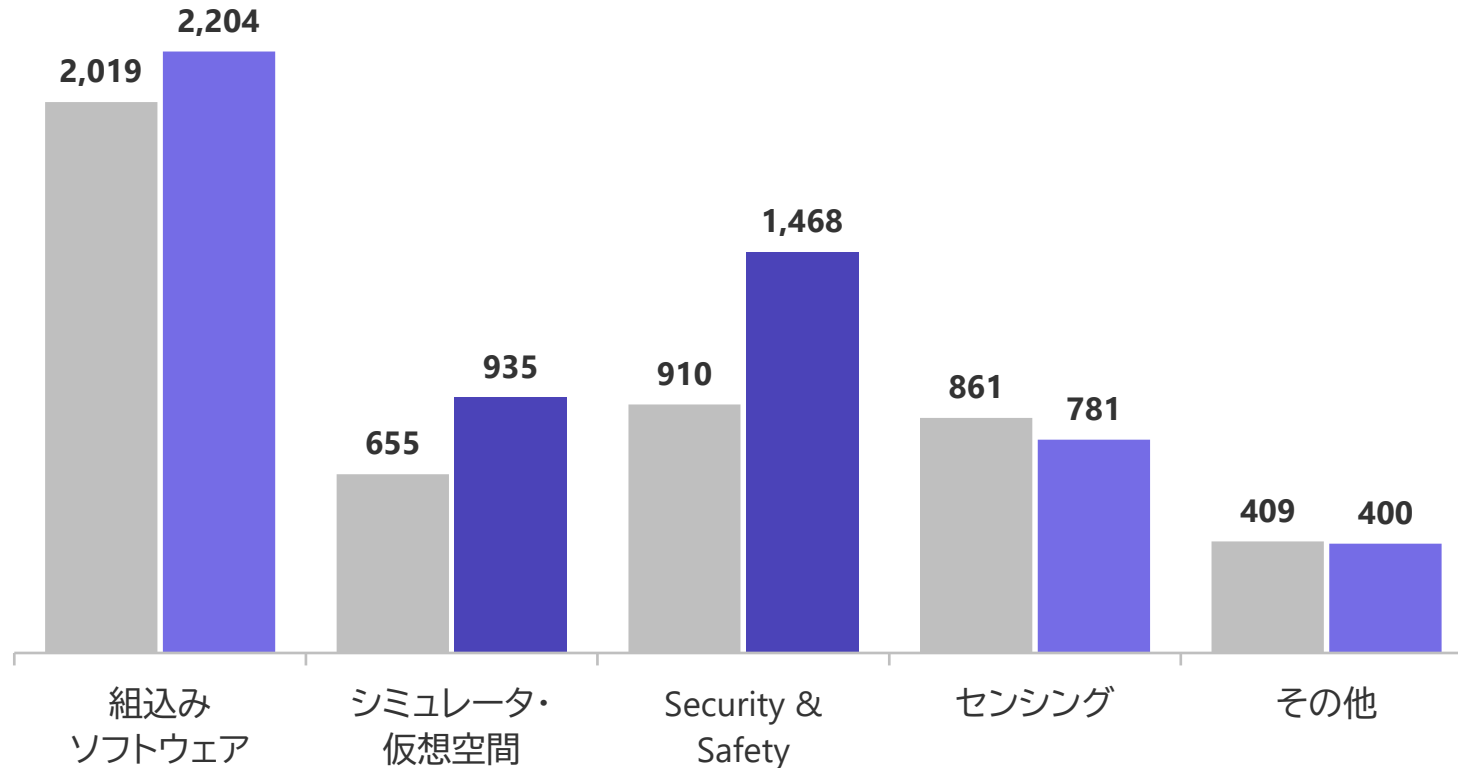


01 業績 | 技術分野別の売上高

成長を牽引したのは、Security & Safety(安心・安全)

(百万円)

■ 2025/8期 ■ 2026/8期



Security & Safety

+61%

910 → 1,468 百万円

構成比 18.8% → 25.4%

BEV・SDV関連の開発で需要が活況

シミュレータ・仮想空間

+43%

655 → 935 百万円

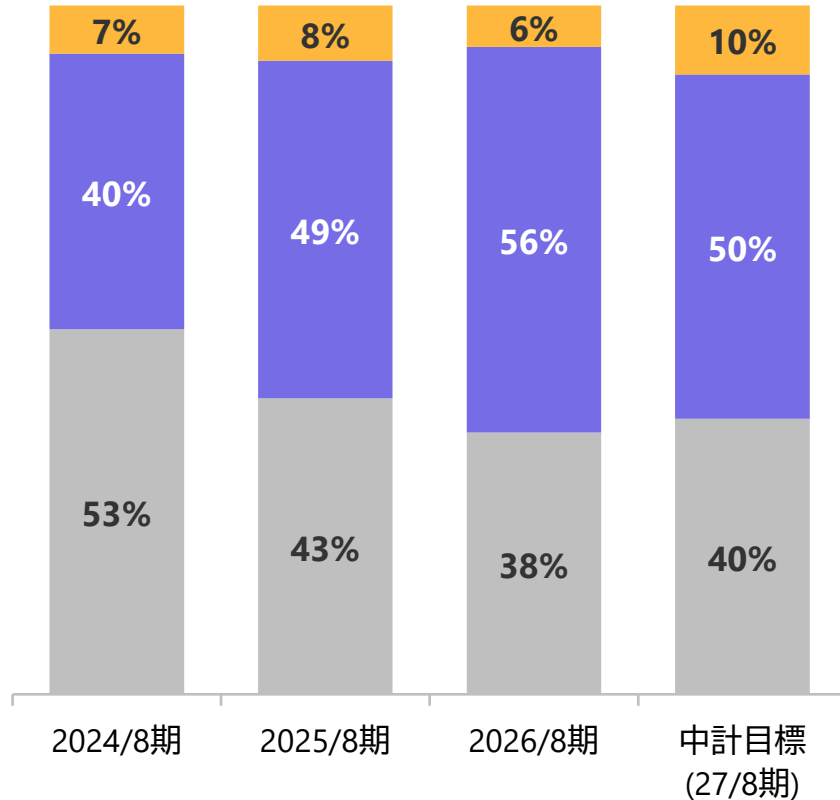
自動運転・ロボットの仮想検証ニーズ

BEV・SDV関連が安全・安心の技術、自動運転・ロボット関連がシミュレーションの需要を押し上げ

01 業績 | 売上構成の変化

受託開発へのシフトが進展。次は知財型と自動車以外を広げる

ソフトウェア事業の売上構成比(中期経営計画の区分)



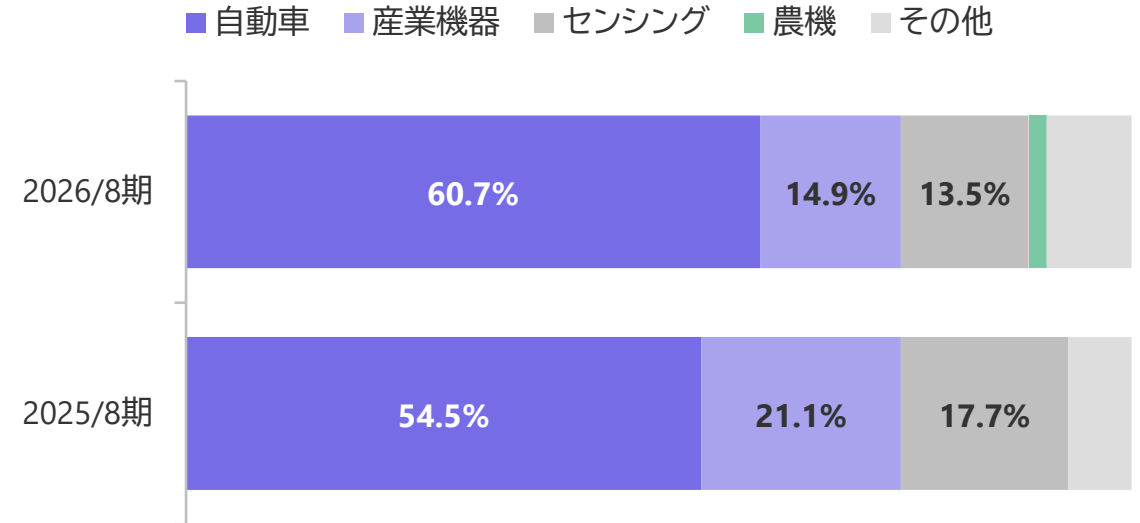
労働力提供型

- 受託開発
- SES

知財提供・活用型

コンサルティング
コンテンツ
SWコンポーネント
自社プロダクト&サービス

産業分野別の売上構成比(連結)

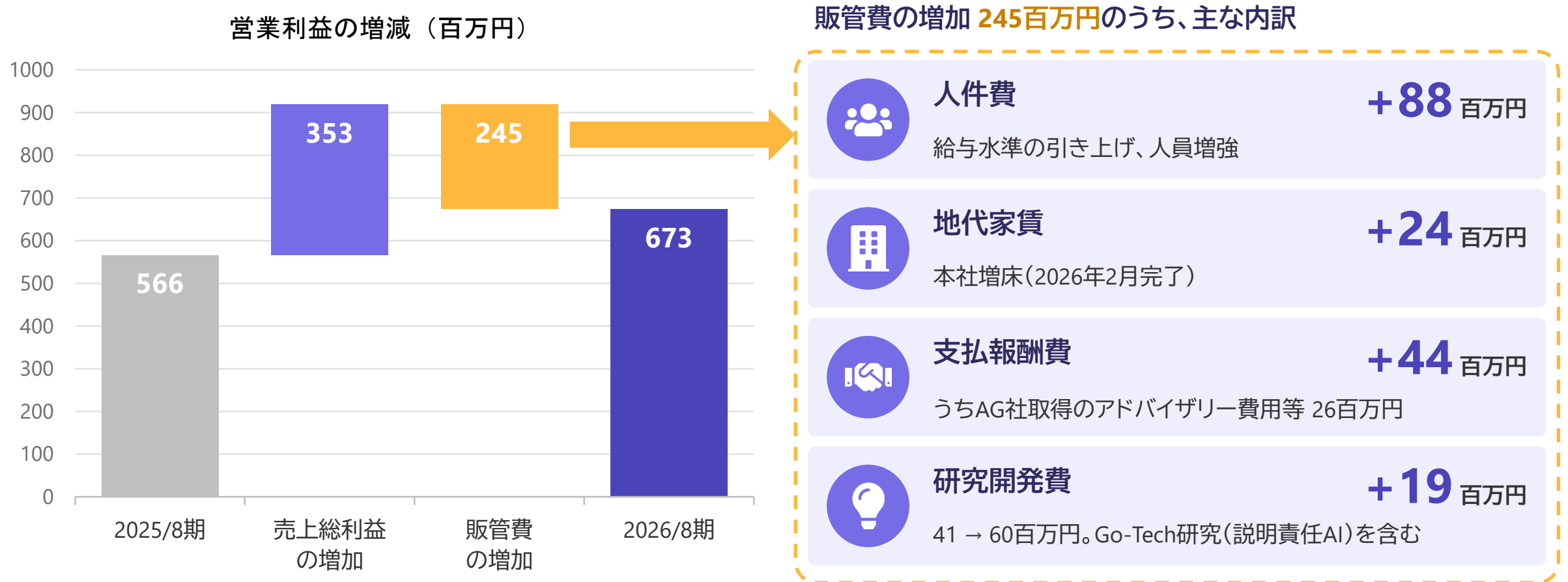


自動車 **60.7%**(+6.2pt) 産業機器 **14.9%**(△6.2pt)
センシング **13.5%** 農機 **1.9%**(AG社が新たに加わる)

26/8期の売上をけん引した自動車産業向けSecurity & Safetyは受託開発が中心。

01 業績 | 営業利益の増減

売上総利益の増加で、販管費の増加を吸収し増益

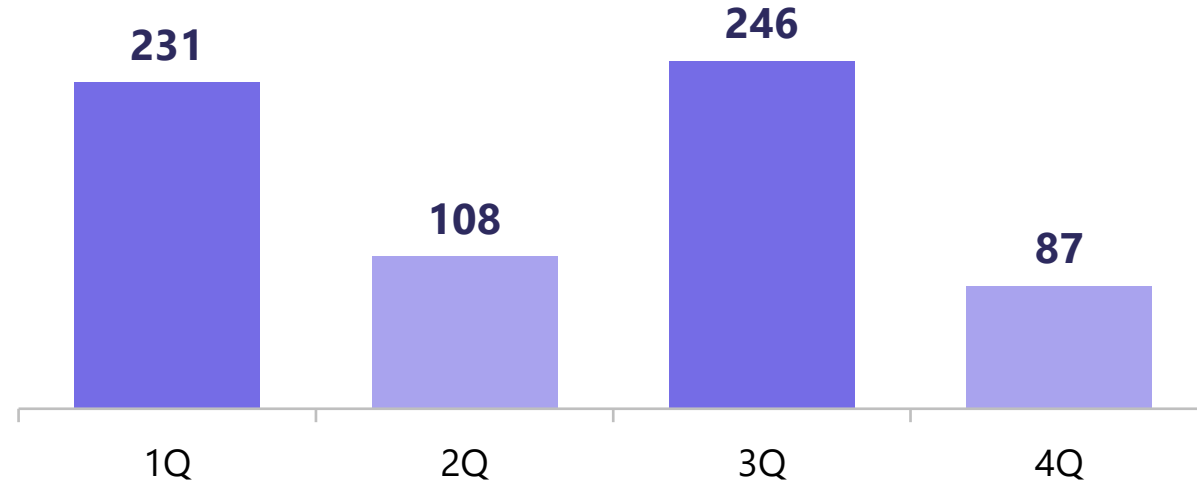


売上総利益の増加 +353百万円が、販管費の増加 +245百万円を上回る

01 業績 | 四半期の推移(2026年8月期)

高利益率案件が牽引も、BEV需要の急減と品質不良対応で減速

四半期営業利益(百万円)



① BEV関連の需要減退

米国の政策動向等により、4Qから急速に需要が減退
→ 業績を牽引した高利益率案件が減少し、4Qの収益性が低下。27/8期の収益性にも相対的に影響あり



② 品質不良案件への対応

引当金・費用を計上。リカバリー要員を充てたため、新たな案件への対応が制約

1件目 2月に発覚 → 26/8期中に収束

2件目 6月以降に発生 → 開発体制を変更し、収束に向かっているが27/8期にも影響あり

1Q
231
ソフトウェア事業の粗利率が改善
(価格交渉・高利益率案件)

2Q
108
センシング事業の期ずれによる赤字、
本社増床の費用、品質不良(1件目)
の引当金

3Q
246
センシング事業の大型案件の納品、
ソフトウェア事業の好調

4Q
87
BEV需要減退による収益性低下、品
質不良(2件目)への対応

BEV需要減、品質不良案件2件目は27/8期にも影響あり

借入金ゼロ、自己資本比率70.6%



自己資本比率

70.6 %

前期末 69.4%



現金及び預金

2,455 百万円

前期末 2,149



営業CF

511 百万円

前期 571



フリーCF

302 百万円

前期 656

M&Aと設備投資を行いながら、フリーCFはプラスを確保

AIで変わる開発環境を、事業拡大のチャンスにする準備の年

売上高

6,000 百万円

前期比 **+3.6%**

営業利益

680 百万円

前期比 **+0.9%**

経常利益

710 百万円

前期比 **+1.3%**

当期純利益

450 百万円

前期比 **△8.4%**

計画の前提: BEV需要減退で高利益率案件が縮小／前期からの品質不良案件の影響 → ここ数年の成長と比較し減速



AI前提の開発へ転換

全社でAI活用を進め、少人数で大規模開発ができる体制へ



品質の向上

品質不良案件の発生を受け、開発体制を見直し、品質の向上へ



新たな案件の獲得

市場変化に対応する営業で、受注の幅を広げる



外注調整と採用方針

需要に応じた外注の機動的調整と環境に応じた採用方針の転換



エンジニアの育成

AIを活用できる人財、AIによる代替が困難な上流工程や技術領域を担う人財

AIで開発のあり方が変わる今をチャンスととらえ、次の飛躍へ成長基盤を再構築する

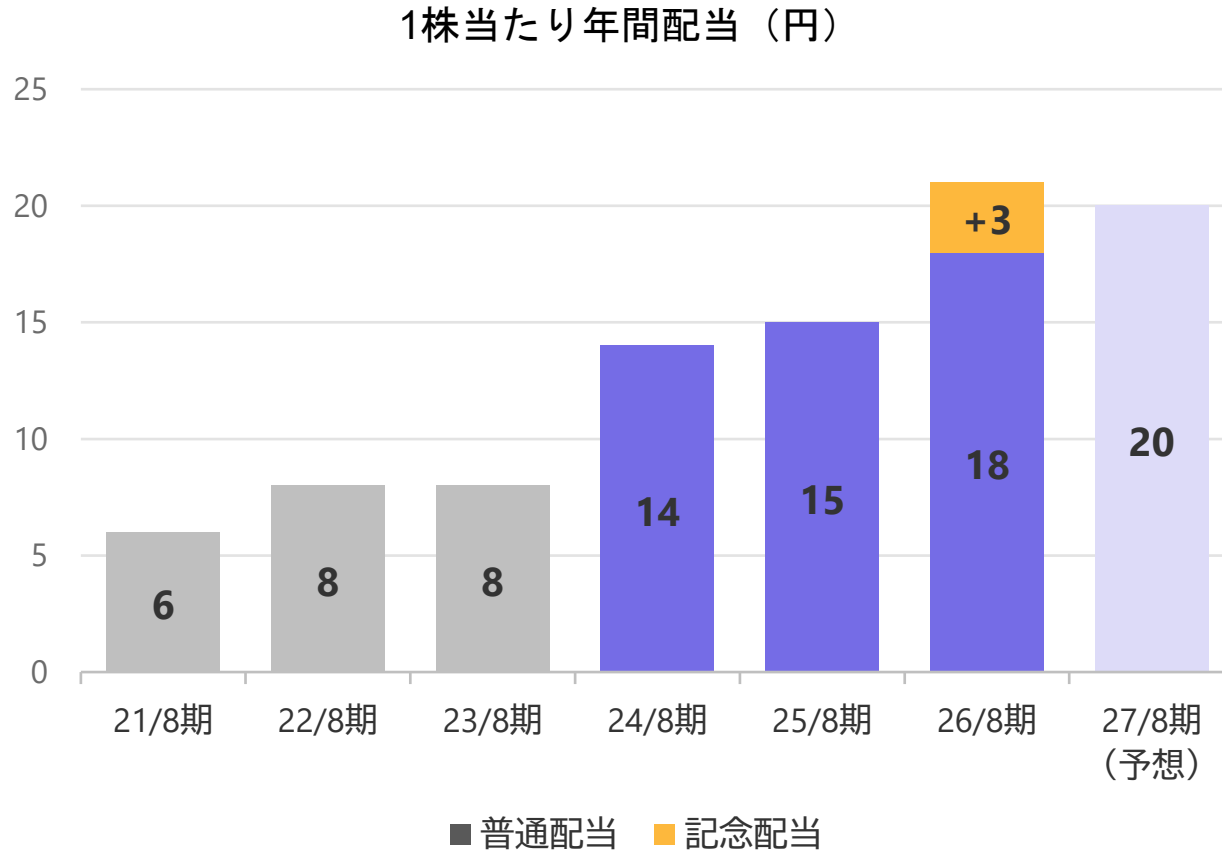
中計最終年度は目標の達成に取り組み、次期中計の飛躍へ

指標	2026/8期 目標	2026/8期 実績	2027/8期 目標	2027/8期 予想
売上高(百万円)	5,600	5,790 ✓	6,000	6,000
営業利益(百万円)	580	673 ✓	660	680
営業利益率	10.4%	11.6% ✓	11.0%	11.3%
ROE	14.4%	16.1% ✓	14.0%	13.0%
1株当たり配当	18円	18円 + 記念3円 ✓	20円	20円

目標の達成に取り組みながら、次期中計での飛躍に向けた基盤を構築する

02 株主還元

第30期の節目に記念配当3円、年間21円



2026/8期 年間配当(予定)

21 円

普通配当 18円
+ 記念配当 3円

第30期の節目への感謝として。記念配当は今回限り

配当性向(連結)

17.1 %

純資産配当率

2.8 %

ROE

16.1 %

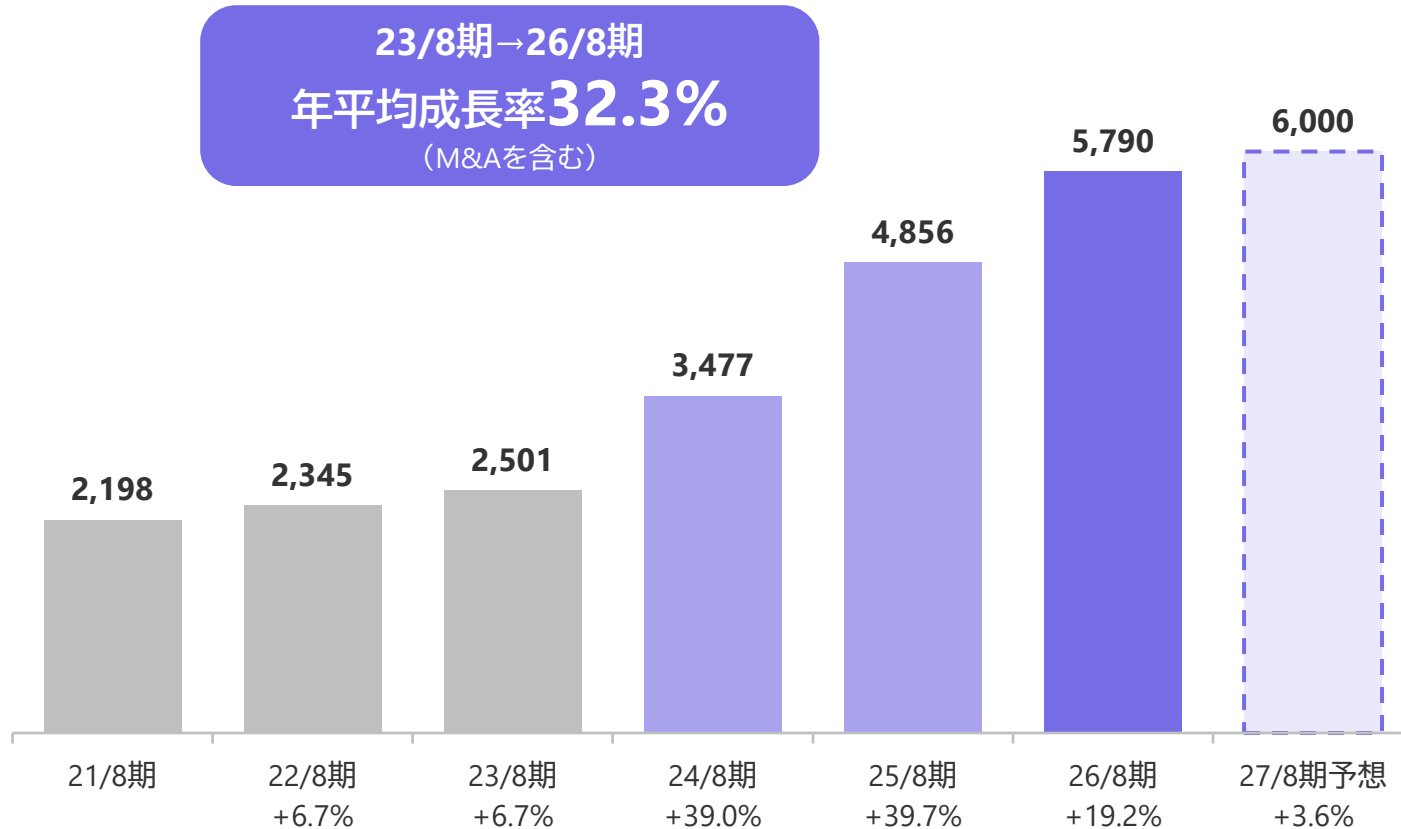
配当方針: DOE(連結株主資本配当率)2.4%を目安

普通配当は3期連続の増配。来期は20円(+2円)を予想

03 次の3年に向けて | これまでの成長

AIを生かした事業体制を築き、成長軌道への回帰を目指す

売上高(百万円)・前期比



これまでの成長を支えたもの

-  人員の増強(社外の人財も含む)
-  価格の見直し・高利益率案件
-  M&Aによる事業の拡大

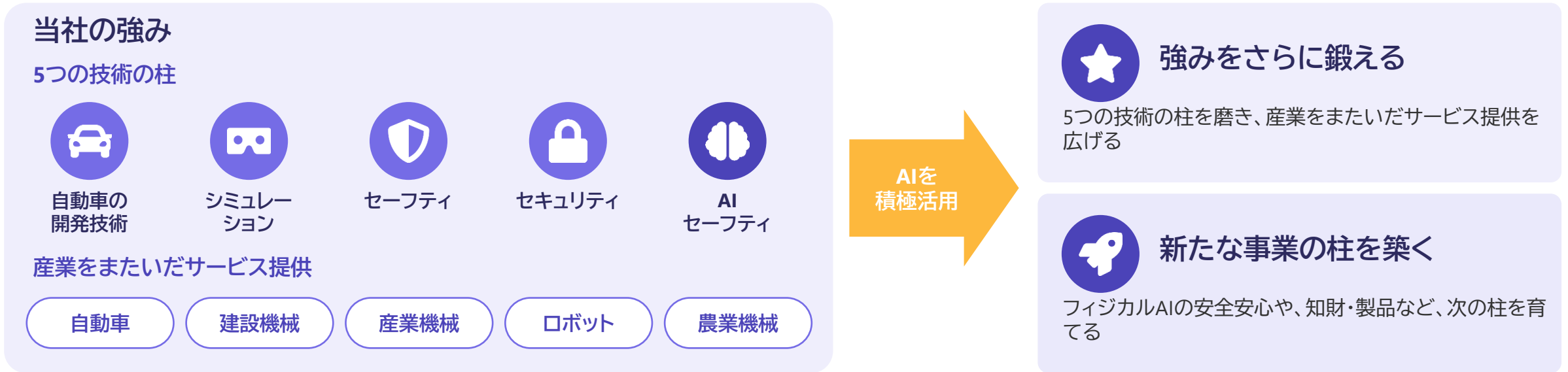


AIの活用を前提に
当社のAI研究の成果も生かして
新たな事業体制を築く

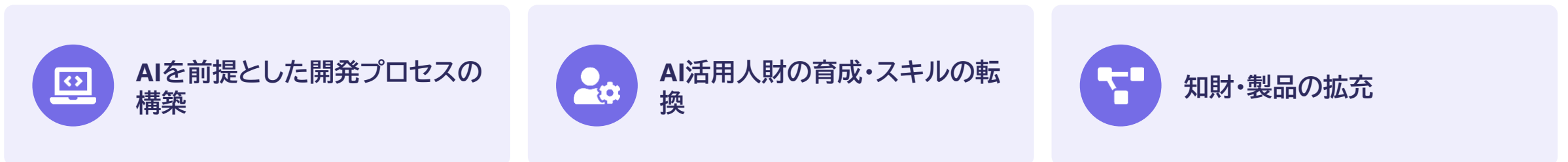
27/8期は、成長軌道へ回帰するための準備期間

03 次の3年に向けて | 成長の形の転換

AIを積極活用し、当社の強みを鍛え、新たな事業の柱を築く

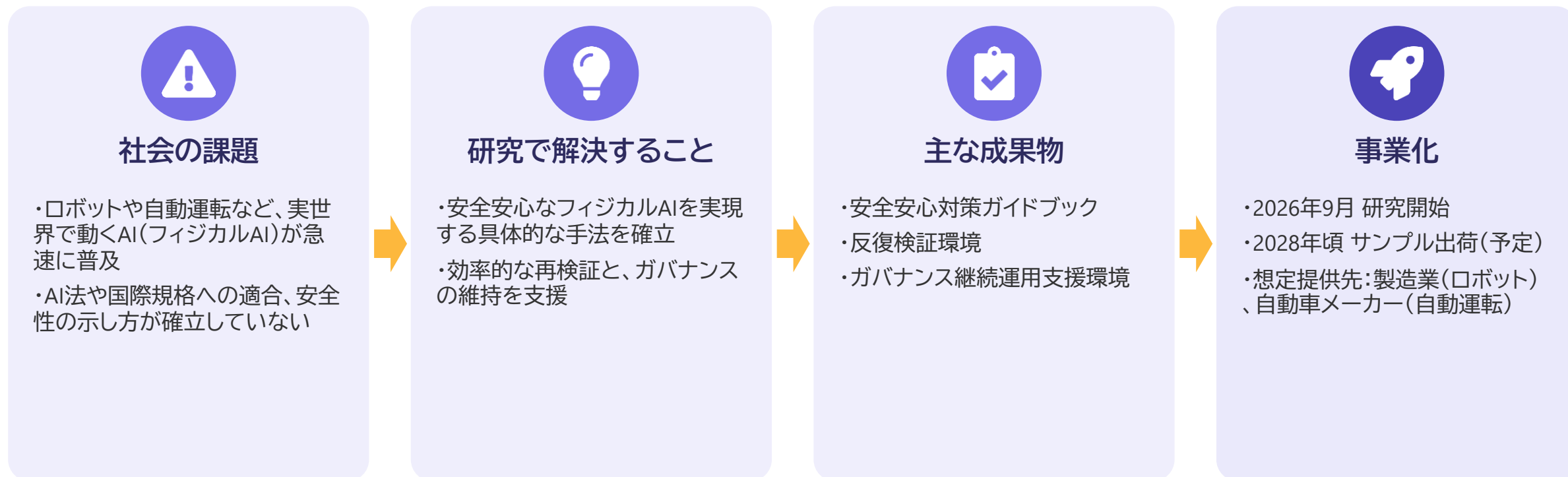


27/8期に取り組むこと



5つの技術の柱 × 産業をまたぐ提供力 × AIで、次の成長へ

フィジカルAIの安全安心という課題に、全力で取り組む

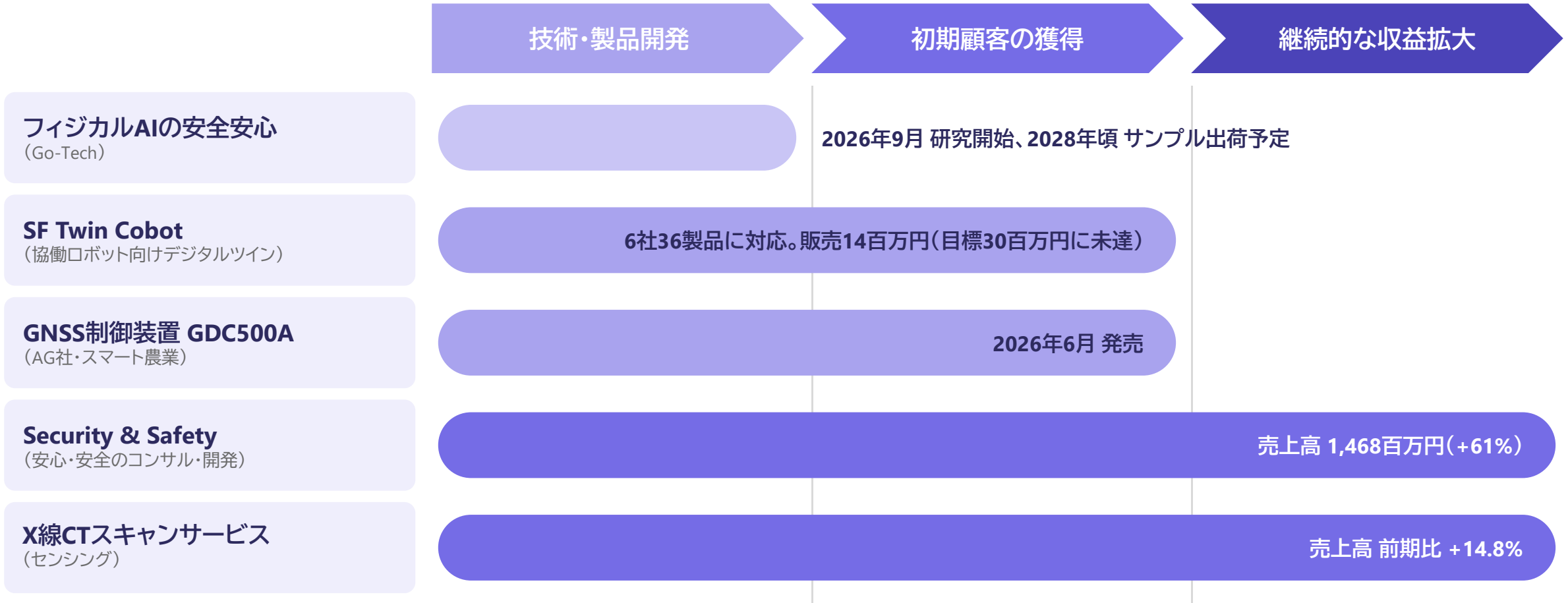


体制 主たる研究等実施機関: 当社 | 連携大学: 豊橋技術科学大学、名古屋大学 | 事業管理機関: 中部科学技術センター
アドバイザー: アイシン、デンソーウェーブ | オブザーバー: 産業技術総合研究所

研究の成果を、コンサルティング・ツール販売・運用支援の事業へ

03 次の3年に向けて | 成長領域の現在地

研究から収益へ。成長領域を段階に応じて育てる



研究で獲得した技術を、製品・サービスとして収益につなげる

次の3年を見据えた成長基盤の再構築に、しっかり取り組みます



組織力

従業員エンゲージメントの向上、
生成AIの活用を踏まえた人財の確保・育成



技術力

開発体制の見直しによる品質向上、高付加
価値サービスの展開、顧客の信頼性向上



収益力

市場変化に対応する営業強化による受注の
拡大、財務数値・資本効率の向上



AI活用を前提に、組織・技術・収益の力を高める

27/8期は、成長軌道への回帰と新たな成長に向けた準備の年です。中期経営計画の目標の達成に取り組むとともに、AIを前提とした開発体制への転換を進め、次の3年を見据えた成長基盤の構築にしっかり取り組んでまいります。

A p p e n d i x

連結業績(前期比・予想比)

(百万円)	2025/8期	期初予想	修正予想	2026/8期	前期比	修正予想比
売上高	4,856	5,600	5,650	5,790	+19.2%	102.5%
売上総利益	1,806	—	—	2,159	+19.5%	—
売上総利益率	37.2%	—	—	37.3%	+0.1pt	—
販売費及び一般管理費	1,240	—	—	1,486	+19.8%	—
営業利益	566	580	633	673	+18.9%	106.5%
営業利益率	11.7%	10.4%	11.2%	11.6%	-0.1pt	—
経常利益	588	596	656	700	+19.0%	106.8%
当期純利益	424	435	450	491	+15.8%	109.2%
EPS(円)	106.49	108.87	112.87	122.97	+15.5%	108.9%

主力のソフトウェア事業が、全体を牽引



ソフトウェア事業

売上高

4,852 百万円 **+21.9%**

セグメント利益

629 百万円 **+24.6%**

利益率 12.7% → 13.0%



センシング事業

売上高

781 百万円 **△ 9.3%**

セグメント利益

34 百万円 **△ 18.4%**

利益率 4.8% → 4.4%



その他

売上高

165 百万円 **—**

セグメント損失

△30 百万円 **—**

AG社取得費用等を含む

センシング事業の減収は、大型案件の納期が翌期にずれのため

※前期の数値は前期開示値。「その他」はリザーブマート社(前期に期中取得)とアグコントロールシステム社(2026年3月取得)。

貸借対照表・キャッシュ・フロー

貸借対照表(百万円)	25/8末	26/8末
現金及び預金	2,149	2,455
売上債権・契約資産	315	428
棚卸資産	273	376
のれん	265	249
総資産	4,072	4,628
負債合計	1,234	1,337
純資産	2,837	3,291
自己資本比率	69.4%	70.6%
BPS(円)	708.46	817.05
期末日終値(円)	1,409	1,785
PBR(期末日終値ベース)	1.99倍	2.18倍

キャッシュ・フロー(百万円)	25/8期	26/8期
営業CF	571	511
投資CF	85	△209
フリーCF	656	302
財務CF	△79	△56
現金同等物 期末残高	2,149	2,395

大型案件の期ずれで減収減益。製品競争力の強化を推進

セグメント売上高

781 百万円

前期比 **-9.3%**

セグメント利益

34 百万円

前期比 **-18.4%**

セグメント利益率

4.8% → **4.4%**

大型案件検収の期ずれにより、利益額が前期比で減少

01 収益性の向上

一部達成

海外仕入れ製品は円安による為替変動分を考慮して値上げ。物価高等に対応し、保守等の価格も改定

02 製品競争力の強化

計画どおり

フラットパネル・X線源の仕様を見直し標準仕様機を設定。ロボットCTはGo-Tech採択を受け開発に着手。大型装置は高精度・高速化・大型化の強みを訴求

03 スキャンサービスの拡大

計画どおり

山梨県産業技術センターとの協業を開始し、取扱量を拡充。売上高は前期比 +14.8%

受注は堅調。期ずれした大型案件は翌期の納品を見込む

アグコントロールシステムが加わり、スマート農業へ



株式会社アグコントロールシステム

2026年3月 全株式取得(取得対価530百万円)



GPSのみで高精度な高さ制御。ほ場の均平化に活用



2026年6月 GNSS制御装置「GDC500A」発売



建設機械の自動運転、インフラ保全など他分野への応用を目指す



のれん18百万円(4年償却)、無形資産22百万円(9年償却)

同社の営業利益率(2025年6月期)

20.2 %

売上高268百万円・営業利益54百万円。売上規模は縮小傾向で、回復が課題

その他セグメント(2026/8期)

165 百万円

売上高

△30 百万円

セグメント損失

セグメント損失の主な要因

AG社の取得費用26百万円、RM社の先行開発投資を兼ねた案件の受注損失引当金

GPSセンシング技術×ソフトウェア開発力で、農業以外への展開を目指す

SF Twin Cobot: 7社・37製品に対応、販売は目標に届かず

協働ロボット向けデジタルツイン



モニタリング



ティーチング



シミュレーション

- ・国内外ロボットメーカー7社・37製品に対応
- ・実機なしで干渉やサイクルタイムを事前検証
- ・2026年6月17日 Ver.1.6をリリース
- ・VR空間を迅速に構築する研究開発を開始

販売実績(当期)

14 百万円

目標 30百万円

販売目標	2026/8期	2027/8期	2028/8期
百万円	30(実績14)	45	60

製品の対応範囲は拡大。販売の立ち上げが今後の課題

前回お示した計画の進捗

前回(2025年10月)の計画	当期の進捗	評価
本社増床	2026年2月に完了(投資総額63百万円)	完了
Security & Safety(安心・安全)の拡大	売上高 約1.6倍(910→1,468百万円)	計画超
AIの安心に関する研究	グループでGo-Tech事業「説明責任AI」を研究開発	実施中
センシング:価格の見直し	海外仕入れ製品・保守の価格を改定	一部達成
センシング:ロボット搭載型CT	ロボット駆動型X線CTの開発がGo-Tech事業に採択	計画どおり
M&Aの推進	アグコントロールシステム社を取得(2026年3月)	完了
VR技術の商業化(SF Twin)	販売実績14百万円(目標30百万円)	遅れ

本資料における注意事項

- 本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
実際の業績は、今後の事業運営や環境の変化等の状況の変化により大幅に異なる可能性があります。
- 今後、新しい情報・事象の発生があった場合においても、当社グループは、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報について、更新・改定を行う義務を負うものではありません。
- また、本資料に含まれる当社グループ以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社グループは当該情報の正確性、適正性等を保証するものではありません。